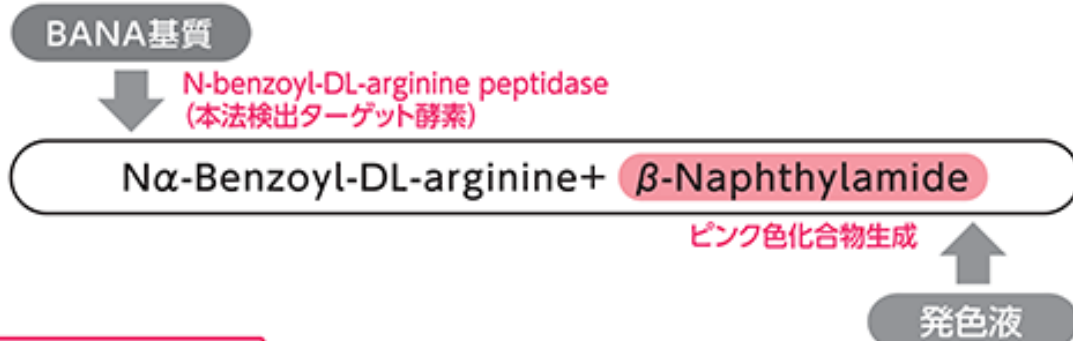




歯周病原因菌酵素活性測定

測定原理



感度・特異性

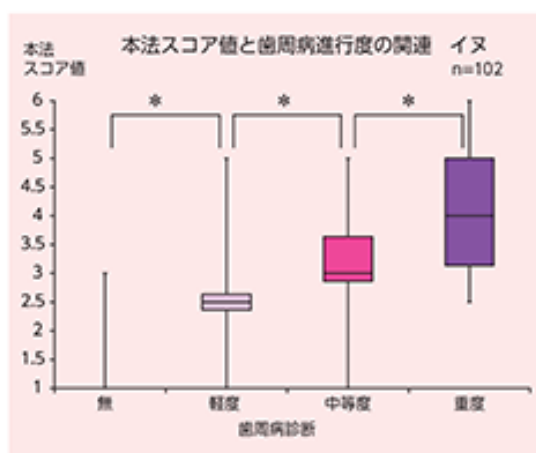
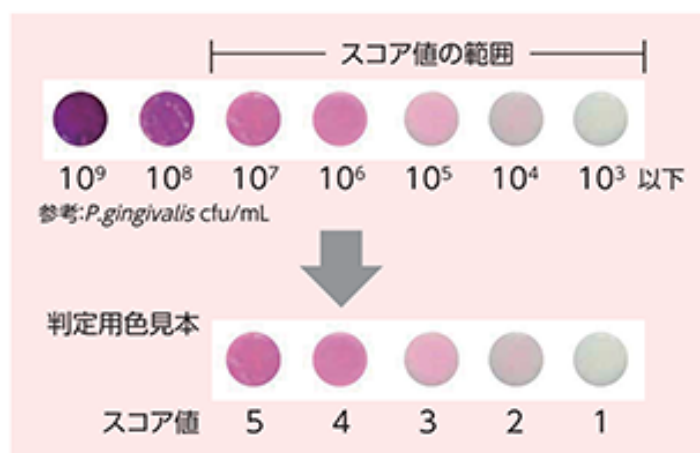
◆感度 *P.gingivalis*, *P.gulae* : 1×10^4 cfu/mLまで検出可能です。

◆特異性 Red Complex 3菌種を測定することが可能です。

(補足: 本法では、イヌ・ネコの口腔内の常在菌である一部の *Capnocytophaga* 属が産生する酵素を検出しますが、 10^7 cfu/mL以上しか反応しません。そのため、これらの菌による擬陽性になる可能性は極めて少ないと考えられています。)

検査の判定

発色の強さをスコア値で判定し、歯周病原因菌の酵素活性を知ることができます。



本法スコア値(発色の強さ)が高くなると歯周病が進行している傾向が認められました。 *: $p < 0.05$

Phase.1

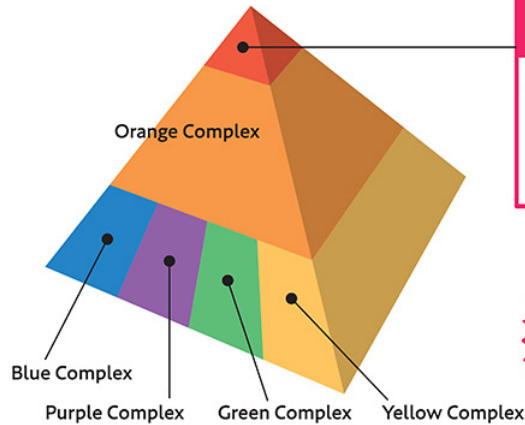
ペットの歯周病



歯周病の原因菌

Red Complexと呼ばれる3菌種が特に重度の歯周病に関与していると言われています。

この3菌種が特有に持つ酵素活性を測定することで、簡単に短時間でRed Complexの存在と量を知ることが可能です。



Red Complex

レッドコンプレックス

重度の歯周病に影響があるとされている3菌種。

P.gingivalis
T.denticola
T.forsythensis

イヌでは
*P.gulae*が
重要

歯周病の進行

犬の歯周病

ケアせず放置すると歯周病は進行します

正常	歯周病軽度	歯周病中等度	歯周病重度
口臭がない	口臭がある	口臭の増大	ひどい口臭がする
歯、歯肉の状態 ・歯の表面に汚れが少ない	歯、歯肉の状態 ・歯肉境界部(歯肉と歯の間)が赤い ・軽度に歯垢、歯石が沈着している	歯、歯肉の状態 ・歯肉が赤く腫れている ・中等度に歯垢、歯石の付着が見られる ・痛みを伴う	歯、歯肉の状態 ・歯肉が赤く腫れ、出血や膿汁がみられる ・重度に歯垢、歯石の付着が見られる ・痛みを伴う
骨の状態 ・歯と顎の骨がしっかりしている	骨の状態 ・症状は歯、歯肉に限定されるためレントゲンではほとんど変化はない	骨の状態 ・下顎骨の吸収が認められる	骨の状態 ・下顎骨の吸収が進行する ・歯が支えられなくなり、下顎の骨折の危険性もある

放置

歯周病を放置すると、口臭や歯を失う原因になり、ペットの健康を損なう恐れがあります。歯周病原因菌の存在と量を知ること、日頃のケアや治療のタイミング、経過観察を行うことができ、ひいては歯周病の予防につながります。

犬・猫のオーラル検査のことなら、
RED COMPLEX TEST for ANIMALS



ADTEC アドテック株式会社